

[条例施行規則64条関係 (500t以上1000t未満排出事業者用)]

(様式第33号) (第64条関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和7年6月11日

(宛先) 長野市長 萩原 健司様

提出者

住 所 長野県長野市大字北尾張部36

氏 名 FICT株式会社

代表取締役社長 雨宮 隆久

(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 026-466-9950

産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画について、長野市廃棄物の適正な処理の確保に関する条例第79条第1項の規定により提出します。

事業場の名称	FICT株式会社
事業場の所在地	長野県長野市北尾張部36
計画期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

①事業の種類	2841 電子回路基盤製造業
②事業の規模	28,550百万
③従業員数	約850名
④産業廃棄物の一連の処理工程	汚泥 → 処理業者へ処理委託(焼却) → 金属回収、脱水 廃油 → 処理業者へ処理委託(焼却) → 発電、助燃材 廃酸 → 処理業者へ処理委託(中和/焼却) → 中和剤、高温参加処理後に鉱山で銅回収、発電 廃アルカリ → 処理業者へ処理委託(中和/焼却) → 発電、セメント材、熱回収、金属回収 廃プラスチック → 処理業者へ処理委託(破碎/焼却) → ガス回収、路盤材、燃料 ガラス陶磁器 → 処理業者へ処理委託(破碎/焼却) → 蛍光灯原料 木屑 → 処理業者へ処理委託(破碎) → 木材チップ

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

別紙2による

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

【前年度（令和6年度）実績】						
①現状	産業廃棄物の種類	汚泥(上・下水、建設、その他)	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック(廃タイヤ、発泡
	排 出 量	289.25t	5.76t	113.18t	222.14t	255.71t
	産業廃棄物の種類	水銀使用製品廃棄物	木くず			
	排 出 量	0.53t	27.53t			
	(これまでに実施した取組)					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 製造工程の見直しによる廃棄物の削減 ・ 使用薬品の交換期の延長 ・ 社内処理科による廃棄物の削減 						
②計画	【目標】					
	産業廃棄物の種類	汚泥(上・下水、建設、その他)	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック(廃タイヤ、発泡
	排 出 量	290.00t	6.00t	115.00t	224.00t	260.00t
	産業廃棄物の種類	水銀使用製品廃棄物	木くず	0	0	0
	排 出 量	0.60t	28.00t			
(今後実施する予定の取組)						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 製造工程の見直しによる廃棄物の削減 ・ 使用薬品の変更による廃棄物の削減 						

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)
	汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、ガラス・コンクリート陶磁器くず、木くず、金属くず、水銀使用製品を分類し保管している
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 金属に複合部材（プラスチック、ゴム）が一体化しているものは可能な限り、分解分別を行い金属部分を有価物として売却（再資源化）する。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

【前年度（令和 年度）実績】						
産業廃棄物の種類	汚泥(上・下水、建設、その他)	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック(廃タイヤ、発泡)	ガラス・コンクリート・陶磁器く
自ら再生利用を行った産業廃棄物の量						
産業廃棄物の種類	水銀使用製品 廃棄物	木くず	0	0	0	0

①現状

(これまでに実施した取組)

【目標】

産業廃棄物の種類	汚泥(上・下水、建設、その他)	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック(廃タイヤ、発泡)	ガラス・コンクリート・陶磁器く
自ら再生利用を行う産業廃棄物の量						
産業廃棄物の種類	水銀使用製品 廃棄物	木くず	0	0	0	0
自ら再生利用を行う産業廃棄物の量						

②計画

(今後実施する予定の取組)

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

【前年度（令和 年度）実績】						
産業廃棄物の種類	汚泥(上・下水、建設、その他)	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック(廃タイヤ、発泡)	ガラス・コンクリート・陶磁器く
自ら熱回収を行った産業廃棄物の量						
自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量						
産業廃棄物の種類	水銀使用製品 廃棄物	木くず	0	0	0	0

①現状

(これまでに実施した取組)

【目標】

産業廃棄物の種類	汚泥(上・下水、建設、その他)	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック(廃タイヤ、発泡)	ガラス・コンクリート・陶磁器く
自ら熱回収を行う産業廃棄物の量						
自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量						
産業廃棄物の種類	水銀使用製品 廃棄物	木くず	0	0	0	0

②計画

(今後実施する予定の取組)

【目標】							
②計画	産業廃棄物の種類	汚泥(上・下水、建設、その他)	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック (廃タイヤ、発泡スチロール含)	ガラス・コンクリート・陶磁器くず(石膏ボード含)
	全処理委託量	290.00t	6.00t	115.00t	224.00t	260.00t	2.00t
	優良認定処理業者への処理委託量						
	再生利用業者への処理委託量						
	認定熱回収業者への処理委託量						
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者へ処理委託量						
	産業廃棄物の種類	水銀使用製品廃棄物	木くず	0	0	0	0
	全処理委託量	0.60t	28.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t
	優良認定処理業者への処理委託量						
	再生利用業者への処理委託量						
	認定熱回収業者への処理委託量						
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者へ処理委託量						
(今後実施する予定の取組)							
金属くずとゴム、プラスチックを分別し、金属は有価物化し廃棄物発生量を削減する							
※事務処理欄							

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が500トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が12以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。
また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

産業廃棄物処理計画書（産業廃棄物の実績及び計画の量）

処理事項		産業廃棄物の種類													
		汚泥(上・下水、建設、その他)	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック(廃タイヤ、発泡スチロール)	ガラス・コンクリート・陶磁器くず(石膏ボード)	水銀使用製品廃棄物	木くず	0	0	0	0	合計	
排出抑制に関する事項	前年度排出量(実績)	289.25t	5.76t	113.18t	222.14t	255.71t	1.89t	0.53t	27.53t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	915.99t	
	本年度排出量(計画)	290.00t	6.00t	115.00t	224.00t	260.00t	2.00t	0.60t	28.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	925.60t	
自ら行う(行った)再生利用に関する事項	前年度実績	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	
	本年度計画(目標)	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	
自ら行う(行った)中間処理に関する事項	自ら行う(行った)熱回収の量	前年度実績	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	
	自ら中間処理により減量する(した)量	前年度計画(目標)	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	
自ら行う(行った)埋立処分又は海洋投入処分に関する事項	前年度実績	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	
	本年度計画(目標)	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	
処理の委託に関する事項	全処理委託量	前年度実績	289.25t	5.76t	113.18t	222.14t	255.71t	1.89t	0.53t	27.53t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	915.99t
		本年度計画(目標)	290.00t	6.00t	115.00t	224.00t	260.00t	2.00t	0.60t	28.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	925.60t
	優良認定処理業者への処理委託量	前年度実績	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t
		本年度計画(目標)	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t
	再生利用業者への処理委託量	前年度実績	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t
		本年度計画(目標)	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t
	認定熱回収業者への処理委託量	前年度実績	0.23t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.23t
		本年度計画(目標)	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	前年度実績	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t
		本年度計画(目標)	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t

【記載方法】

- 各産業廃棄物の種類ごとに該当箇所の上段に前年度の実績（現状）を、下段に本年度の目標（計画）の産業廃棄物の量を記載してください。
- 「自ら行う再生利用に関する事項」の欄は、自ら直接再生利用した量と中間処理した後再生利用した量を記載してください。
- 「自ら行う埋立処分又は海洋投入処分に関する事項」は、自ら直接埋立処分又は海洋投入処分した量と自ら中間処理した後自ら埋立処分又は海洋投入処分した量を記載してください。
- 「処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量及びそれぞれの内訳を記載してください。